

赤ちゃんの股関節脱臼防ごう

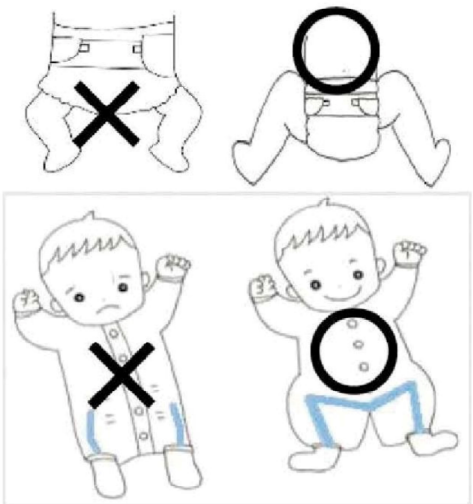
赤ちゃんの先天性股関節脱臼（発育性股関節形成不全）は、1000人中1〜3人に発生するまれな病気です。適切に養育や治療がなされないと股関節がうまく育たず、将来、歩行に障害が残ることがあります。わが国では、生後1か月および3〜4か月健診にて、股関節の開きなどのチェックを受けた際に、股関節脱臼が発見されることが多くなっています。

股関節脱臼について、股関節の形成から見てみましょう。赤ちゃんは、お母さんのお腹の中で受精した後、わずか8週までは主な軟骨が完成し、約10週末には、手足の骨幹が急速に軟骨から硬い骨になると言われています。しかし、出生時の脚の付け根の

埼玉県立大学准教授 田村佳士枝

骨は軟骨部が多く残っていて関節が外れやすい状態です。さらに、関節が外れてしまうと、大腿骨の先端を覆う関節包や靭帯が伸びて、脱臼しやすくなってしまうこともあります。

股関節脱臼の発生や悪化を防ぐためには、おむつの当て方や赤ちゃんの抱き方に配慮が必要です。赤ちゃんの自然な脚の形は、両膝と股関節が十分に曲がったM字型で、外側に開いています。この姿勢



日本小児整形外科学会のパンフレットより一部抜粋

優しくケアし発育支援しよう

が保たれるよう、以下の点に注意しましょう。

股関節脱臼予防のケア方法は

①おむつ交換の時は、足首をもって臀部を持ち上げるのは危険です。臀部を手のひらにのせて、持ち上げましょう。
②衣服は、股関節の自動運動がしやすい、ゆったりとした服を選びましょう。

③抱き方は、正面から股関節を広げ、M字型開脚で抱いてあげましょう。横抱きのスリングは開脚がしにくく、両脚が伸ばされ股関節に負担がかかる危険もあるため、注意が必要です。

④向き癖のある赤ちゃんは、癖のある向きとは反対側の足が伸展しやすいため、向き癖のある側の頭から身体までをバスタオルなどで少し持ち上げ、癖のある向きとは反対側の足を開脚できるように環境を作りましょう。

気になる場合は、小児の整形外科を受診しましょう。赤ちゃんに優しくケアを行い、発育していく力を支援していきましょう。

